

平成 30 年度 事業報告



岡山理科大学附属中学校

優れた教育内容を提供し、学んでいる子どもたちの学力をさらに伸ばし、難関大学・難関高等学校入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成しました。



社会のグローバル化や産業構造の転換等により、個人個人に求められる能力が変化しつつあります。持続的に発展する社会に素早く

対応しながらも、自らの人生を切り開く力が重要です。そのために、次の項目に重点を置き教育しました。

○人格形成と学力育成

自己実現を叶えるためには、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動できるようになる必要があります。そのために、知識・技能のみならず思考力・判断力や表現力、そして主体性・論理性という「真の学力の伸長」に取り組んでいきました。

また、日々の学校生活をとおして、基本的学習生活習慣をつけるよう指導しました。

○国際理解と国際力向上

グローバル社会の到来を踏まえ、異文化を理解させ、国際力をつけさせることは、自己の表現力が付いた強い人間の養成につながると考え、英語力の強化に取り組みました。

○家庭との信頼関係

家庭と学校を繋ぐ生活記録ノートの活用により、生徒個々の家庭と密接に連携し学校内の様子等が伝わりさらなる信頼が得られるように努めました。

○組織力の向上

安定した学年運営を行うために、教職員の意識改革を行い組織力の強化に努めました。

○経営基盤の安定化

生徒確保に向けて学校組織全体で広報活動を強化しながら教育改革を進めました。生徒及び保護者が満足できる学校とするために、安定した経営基盤の構築に教職員が一丸となって努めました。

私たち教職員一同は、加計学園建学の理念の下、「立志三風」を掲げ、「生活三則」の指導に一丸となって取り組みました。

立志三風

- 一、慎独・去稚心の志風と守る（自主）
- 一、振気・勉学の良風と尚ぶ（努力）
- 一、忠恕・爽凜の美風と養う（友愛）

生活三則

- 一、場と清めましょう
- 一、時と守りましょう
- 一、礼と正しましょう

岡山理科大学附属中学校

校長 洲脇 史朗

教学の充実

■クラス編成

平成29年4月入学生より、高校進学クラス（定員40名）と中高一貫クラス（定員40名）と2種類のクラス編成になりました。高校進学クラスは、難関公立高校や難関私立高校への進学を目指します。

1・2年生の中高一貫クラスは、国公立大学や難関私立大学への進学を目指します。

3年生は中高一貫コース（定員80名）で、難関大学への進学を目指すスーパー選抜クラスと大学進学を目指す選抜クラスという2種類のクラス編成になっています。

また、次年度からは、コースの枠組みをなくして多様な進路志望に対応できるようにし、同じ敷地内にある大学、高校との連携教育を実施することで、より深い見地から専門的な学びが出来るように改編を予定しています。【1-1】

■共通の教育目標

少人数教育を生かして、生徒の学力の向上を進めました。また、基本的な生活習慣を確立して、集団の中で協力しながら生徒が主体的に活動できる力を身につけるよう指導しました。さらに、国際的な視野を持ちながら、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できる力を身につけるよう指導しました。【1-2】

■クラス別教育目標

・高校進学クラス（第1・2学年）

難関高校への進学に必要な学力の養成に努めました。また、高校で求められる、自分の考えをわかりやすく説明できる力の養成に努めました。

【1-3】

・中高一貫クラス（第1・2学年）

基礎学力を充実させるところから始め、それをふまえて国公立大学や難関私立大学への進学に必要な学力の養成に努めました。また、科学的・論理的な思考能力を高め、探求活動を推進させました。

【1-3】

・スーパー選抜クラス（第3学年）

自ら進んで学習する「自立学習」を身につけることで、国公立大学への進学に必要な、バランスのとれた高い学力の養成に努めました。【1-3】

・選抜クラス（第3学年）

基礎学力の充実を図り、学ぶことの大切さや探求心を身につけ、大学進学に通用する能力の養成に努めました。【1-3】

■生徒による授業評価・教員自身による授業評価

確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのかを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、教員自らが自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に活かしました。【2-1】

■授業計画書の作成

全科目の授業計画書を作成し、授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解できるようにし、円滑な学習活動を助けました。【2-2】

■自習教室の開設

全学年の生徒を対象とし、自学自習の習慣を身につけることを目的に、岡山理科大学と連携し、教員志望の大学生を講師とした自習教室を通年で週3日、放課後に開講しました。【3-1】

■論理力向上のための取り組み

国語授業の中で「論理エンジン」を副教材として取り扱い、論理的な文構成の把握や文章作成の能力を養いました。また「論理文章能力検定」や「作文検定」を受検し、論理的思考力・表現力の定着度を図りました。【3-2】

■英会話

英会話を1～3年生の全クラスで実施し、自分から積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養います。また、1・2年生から大学入学共通テストを見越し、4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応したケンブリッジ大学英語検定のコースブック・英語教材を使用しました。

また、教員の授業力強化のため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176 と連携を継続しました。 【4-1】

■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施

- (1) 1年在籍生徒の9割以上が5級以上の取得を目標としました。 【5-1】
- (2) 2年在籍生徒の8割以上が4級以上の取得を目標としました。 【5-1】
- (3) 3年在籍生徒の6割以上が3級以上の取得を目標としました。 【5-1】
- (4) 教員が生徒に対し、積極的に受検指導を行いました。また、ネイティブ教員によるスピーキング指導も行いました。 【5-1】

■TOEFL Primary Step1を1・2年生の生徒に実施

- (1) CEFR A2を目標としました。 【5-2】
- (2) CEFR A2を取得した生徒にはTOEFL Primary Step2の受験を積極的に促しました。 【5-2】

生徒指導

■社会性規範育成への取組

社会的なモラルを踏まえて外部講師による講演などを活用し、規範意識の啓蒙に努めました。学校独自としての規則だけではなく、アクティブラーニングやプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導や話し合いを行いました。 【1-1】

■服装指導の実施

服装モットーは「凜とした爽やかさ」です。規定のものに限らず全てにおいてTP0に合わせ、清々しさを持った着こなしを指導しました。 【1-2】

■挨拶の励行

朝のあいさつ運動、7・8月に実施した職場体験や発表などを通し、気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるように指導しました。この指導が面接での自己表現力に繋がるよ

うに努力しました。 【1-3】

■将来につながるリーダーの育成

体育祭、爽凜祭(学習発表会)、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事は実行委員が主体的に運営していました。生徒が自主的に活動する中で企画力、実践力、思考力などを学び、個々の人間形成力を育成しました。 【2-1】

■情報教育

生徒のインターネットリテラシーの現状を踏まえ、情報モラルの向上に努めました。その一環として岡山県警察本部より講師を招き、「インターネットモラル教育」の講演を実施しました。また、SNS等個人情報適切な扱いを指導しました。 【3-1】

■家庭、地域社会との協力・連携強化

中学生専用の定期バスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施、毎日の生活記録ノートの確認などを通じ生徒の学校生活や地域および家庭での生活などをサポートしました。 【4-1】

■教育相談室・保健室との連携

思春期である中学生期を心身とも健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化しました。 【4-2】

教務関係

■授業・学習関係

- (1) 1単位あたり年間35時間の授業時間を確保しました。また、行事などで授業時間が確保できない場合があるため、夏期補習期間などを利用して、補充授業を設けました。 【1-1】
- (2) 自習教室を利用し、クラスの種別に関係なく、授業で理解できなかった部分を補う機会を設けました。 【1-1】
- (3) 夏期・冬期・春期休業期間中に補習を実施しました。 【1-1】

生徒募集

■カリキュラム・シラバス関係

- (1) 平成 29 年度からの高校進学クラスと中高一貫クラスの授業進度は、2 年生まではほぼ同じように進めました。3 年生では、中高一貫クラスの授業では一部高校の学習に繋げるための学習を行います。【1-2】
- (2) スーパー選抜クラスと選抜クラスについては、学習内容の理解度に応じた指導が可能なシラバスを作成しています。授業で復習が十分できない場合は、先取り学習に固執せず、学習内容の定着を第一とし指導しました。【1-2】

■考査関係

- (1) 定期考査の成績処理終了後、各教科各学年の学習定着状況を把握し、授業計画書を見直しました。【2-1】
- (2) 成績不振の判定基準点を設け、基準点に達していない生徒への指導を行いました。指導期間中の部活動は原則禁止としました。【2-1】

■校外模試

- (1) 学習の定着度をはかり、全国との学力比較や各生徒との弱点の把握などのために、校外模試を 1・2 年生 2 回、3 年生 5 回受験しました。【2-2】
- (2) 高校進学クラスでは、県内の高校入試対策の各種模試を受験しました。【2-2】

■授業改善

これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業や ICT を利用した授業方法、評価方法などの教職員研修会を定期的に行いました。さらに、「Classi」（ベネッセ）を利用して、教員間の情報共有を図りました。【3-1】

■成績評価基準の見直し

定期考査に大きく依存していた成績判定を、授業中の様子や提出物の状況等、観点別評価を基とした多面的な評価ができるように見直しを図り来年度より実施予定です。【3-2】

■塾との関係の強化

中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーに情報発信をしました。

従来塾訪問に加えて「通勤経路型塾訪問」を実施し、それぞれの塾に本校教職員の担当固定化を行い、塾訪問を 7 回実施しました。

さらに、入試結果を踏まえた塾対象入試説明会を 6 月 5 日に実施しました。【1-1】

■情報提供

・オープンスクールや理科実験教室のアンケートによれば、参加動機の上位には常に「小学校からの案内」がランクインしています。小学校の自由研究系課題とリンクさせた企画内容を維持するとともに、印刷物等により案内を行いました。【1-2】

・オープンスクールや入試だけでなく、学校の情報をホームページや Facebook でも、迅速に幅広く提供しました。

さらに、直前には新聞等で 5 回告知を行い、生徒確保に努めました。【1-2】

■広報企画

昨年度も実施した「県立中学校適性検査対策講座」等には多くの児童保護者の参加がありました。今年度も継続実施したところ昨年度よりも多くの約 500 名の参加がありました。引き続き本校教職員の各入学試験分析力と入学試験作題力の向上を目指しました。

また、学校見学（個別オープンスクール）にて、児童保護者に対し平素の学校を見学する機会を設け、3 年生で開講している学校設定科目「理科実験」の授業日を積極的に呼びかけました。

- ① 県立中学校適性検査早期対策講座（5 月 19 日）
- ② 県立中学校適性検査対策講座（10 月 20 日）
- ③ オープンスクール

（6 月 30 日、7 月 28 日、8 月 26 日）

(本校教職員による参加体験型授業)

- ④ 理科実験教室 (8月4日)
(岡山理科大学教員による参加体験型授業)
- ⑤ トワイライト天体観測 (9月14日)
- ⑥ ホームページ更新・・・見やすく、分かり易い内容に改善、研究。Facebookの開設。
- ⑦ 学校新聞「VIVA 理中」・・・年2回発行
- ⑧ 募集要項・・・10月中旬に完成しました。

【1-3】

■入試制度の検証

入試制度を検証し、面接と書類選考により判定する推薦入試(調査書型)を新設し、受験生増につながる入試制度の策定に取り組みました。 【2-1】

組織力の向上

■学校運営会議の強化

校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織し開催しました。学校全体の運営方針に基づき、学校運営が円滑にかつ革新的に進むよう、学校業務の企画立案および連絡調整を強化しました。 【1-1】

■教科会議・学年団会議の強化・連携

各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進し、情報を共有することで、効率的な生徒の学力向上を図りました。

また、学年団会議において、生徒の情報を共有することで、的確な指導を行えるよう努力しました。

【2-1】

主な行事

4月7日	始業式
4月9日	入学式
4月14日	授業参観
4月19日	健康診断
5月26日	PTA総会
6月14日	音楽鑑賞
9月23日	体育祭(岡山ドーム)
10月17日～19日	修学旅行
11月10日	爽凜祭(学習発表会)
1月18日	百人一首大会
1月31日～2月1日	校外活動
3月14日	義務教育修了式
3月18日～26日	海外研修
3月22日	終業式

生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成30年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	35	240	118

(単位：人)

■教職員数

(平成30年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
1※	1	11	12	1

※校長は附属高等学校と兼任

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	
		30年度 決算額	前年度 決算額
教育活動 収入	学生生徒等納付金収入	62,672	75,750
	経常費等補助金	51,574	62,705
	その他収入	4,215	25,471
	計	118,462	163,926
	教育活動 支出	人件費	125,713
教育研究経費		27,507	24,432
管理経費		14,071	13,665
その他支出		0	9
計		167,292	184,014
教育活動収支差額		△48,830	△20,088
教 活 外	収 受 取 利 息 等	0	0
	支 借 入 金 利 息 等	0	0
	教育活動外収支差額	0	0
経常収支差額		△48,830	△20,087
特 別	収 資 産 売 却 差 額 等	8	0
	支 資 産 処 分 差 額 等	0	0
	特別収支差額	8	0
基本金組入前収支差額		△48,822	△20,087
基本金組入額合計		0	△2,322
当年度収支差額		△48,822	△22,409

岡山理科大学附属中学校

中期計画の進捗状況一覧

教育の充実	H29	H30	R1	R2	R3	中期計画
1 - 1 高校進学クラスの設置	●					教育の充実
- 2 共通の教育目標	●					
- 3 クラス別教育目標	●					
2 - 1 生徒による授業評価・授業者自身による授業評価	●					教育の質保証
- 2 授業計画書の作成	●					
3 - 1 自習教室の開設	●					基礎学力の向上
- 2 論理力向上のための取り組み	●					
4 - 1 英会話	●					コミュニケーション力の向上
5 - 1 実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施	●					資格取得支援の向上
- 2 TOEIC Bridgeを1・2年生の生徒に実施	●					
生徒指導	H29	H30	R1	R2	R3	中期計画
1 - 1 社会性規範育成への取組	●					マナーの向上
- 2 服装指導の実施	●					
- 3 挨拶の励行	●					
2 - 1 将来につながるリーダーの育成	●					人間形成力の向上
3 - 1 情報教育	●					情報教育の充実
4 - 1 家庭、地域社会との協力・連携強化	●					生徒支援の強化
- 2 教育相談室・保健室との連携	●					
教務関係	H29	H30	R1	R2	R3	中期計画
1 - 1 授業・学習関係	●					教育の充実
- 2 カリキュラム・シラバス関係	●					
- 3 クラスの編成	●					
2 - 1 考査関係	●					基礎学力の向上
- 2 校外模試	●					
3 - 1 授業改善	●					教育の質保証
- 2 成績評価基準の見直し	●					
生徒募集	H29	H30	R1	R2	R3	中期計画
1 - 1 塾との関係の強化	●					広報活動の強化
- 2 情報提供	●					
- 3 広報企画	●					
2 - 1 入試制度	●					入試制度の検証
組織力の向上	H29	H30	R1	R2	R3	中期計画
1 - 1 学校運営会議の強化	●					学校運営の強化
2 - 1 教科会議・学年団会議の強化・連携	●					情報共有の強化